

宮崎市立生目台中学校の学力向上への取組

1 平成17年度の本校の学力調査結果及び意識調査結果から見た課題

(1) 学力調査からの課題

- ① 国語科においては、漢字の読みや文法などの言語事項について基本的な内容が定着していない。また、課題に応じた材料を集めてそれらを分かりやすくまとめ、伝えようとする力が不足している。
- ② 社会科では、地理分野の時差と日本の領域、歴史分野では、中世の内容が落ち込んでいる。
- ③ 数学科では、数学的な見方や考え方の部分よりも数量・図形などについての知識・理解の部分が低い。
- ④ 理科では、分布のピークが2つある。また、得点がとれていない学習内容が5つある。
- ⑤ 英語科では、英語的表現の内容で通過率が低い。また、到達度100%の割合を伸ばす必要がある。

(2) 意識調査結果からの課題

- ① 学力調査の結果では、5教科合計スコアで県平均を約30点上回っているにもかかわらず、学習意識の面では、それに見合ったレベルの結果が得られていない。
- ② 学習動機、自己効力感、自宅学習習慣の3項目が県平均を下回っており、自ら学んでいこうとする意識の面が、他の領域と比較して低い。

2 学力向上に向けた課題解決への具体的な取組

(1) 学力向上に向けた経営方針

本校では、学校経営方針に「学習活動を中心とした学力の向上」が掲げられている。これは、特別なことを行うのではなく、授業や家庭学習など、日頃の地道な学習活動を通して生徒に学力を身に付けさせ、それを向上させていくことの重要性を全職員で共通理解していくものである。

そのために、本年度の学習に関する努力事項を「学習指導の充実」として次のように設定した。

- ① 主体的な学習を培う教育課程の編成と指導方法の工夫改善
- ② 学習意欲の喚起と自主的自発的学習の推進
- ③ 学業指導の徹底による学習態度の確立
- ④ 教育機器活用の推進
- ⑤ 諸診断テスト結果の活用
- ⑥ 学習事項の徹底を図る個別指導の推進

(2) 教育課程内の取組

① 個に応じた指導の充実

英語科・数学科で「習熟度別少人数指導」を行い、2つのコースで個別指導を積極的に取り入れるなどの個に応じた指導を行っている。また、単元末テスト等の検証活動を行い、生徒の実態の把握を行うとともに、生徒を惹き付ける授業を行うために、全職員が研究授業（写真）をするなどの指導方法の改善を行っている。



② 各教科での工夫

各教科において、様々な工夫を行っている。国語科では、文章を読みとる力を育成するために新聞の社説やコラムを読んでその感想をまとめていく「大好きノート」を提出させている。数学科では、全ての時間に生徒の思考の流れに合わせたワークシートを準備している。社会科では、興味・関心をひき、学力の向上を目指すために、パソコンを全ての時間に活用している。理科では、週末課題を準備し、家庭学習におけるドリル学習の充実を図っている。英語科では、繰り返し学習のための「ひたすらノート」を作成させ、毎日提出させている。

(3) 教育課程外の取組

① 朝の読書活動の充実

本校の1・2年生では、朝の授業前の時間に読書の時間を設定している。これは、各教科における基礎的・基本的な内容の確実な定着を図るためには読解力の育成が図られるべきであるという目的から始めたものである。生徒の読みたい本を読む時期や、国語科の選定した本を学級ごとに読む時期を設定するなど、読書によって文章を読みとる力や内容を理解する力を培っている。

② 夏季休業中のサマースクール

夏季休業中の6日間で各3時間、計18時間において、各学年、各教科ごとに学習内容を設定し、生徒に提示し、選択させ、基礎的・基本的な内容の定着を図っている。生徒が、自分の興味・関心や、苦手な内容を把握し自分独自の時間割を作成して受講している。これにより、日頃の授業で十分に理解できなかった内容を再度学習することになり、習熟の程度が向上してきた。

(4) 保護者・家庭、地域との連携

① 家庭学習の充実

家庭学習の実態を学校参観日の学級懇談会で報告し、望ましい家庭学習の在り方について話し合う機会を設ける。

② オープンスクール及び学校参観日

本校は、1年を通してオープンスクールを実施しており、特に9月から10月末にかけて、自治会の回覧板を通して地域の方々へお知らせして、学校評議員や保護者だけでなく、地域の方などに参観してもらう取組を実施している。また、学校参観日においては、参観授業のポイントや流れ等が分かる資料を示し、保護者が参観しやすい工夫を行っている。また、授業の感想や授業評価を保護者にお願ひし、今後の指導に生かすようにしている。

3 成果と課題（今後の取組を含む）

昨年度の結果から本年度の平均点目標を設定したが、合計では目標を上回った。また、全教科、全ての観点で県の平均を上回り、平均点も合計で37.4点上回るよい結果を残すことができた。これは、昨年から一貫して取り組んできた学力向上の成果である。しかし、さらに伸ばしていかなければならない観点や要素もあると思われる。

(1) 成果

- ① 昨年度の各教科ごとの課題で挙げられたもののうち、国語科の漢字の読みと英語科の英語的表現以外は全て改善が見られた。
- ② 生徒が、どの教科でも基礎的・基本的な内容の定着が見られるとともに、発展・応用的な内容についても力がつきつつある。
- ③ 意識調査結果にみる課題については、学習動機と自己効力感について改善が見られた。また、「学びに向かう力」については、全ての項目で県の平均を上回ることができた。
- ④ 学習意識調査において、「生きる力」は全て県の平均を上回り、身に付いている。

(2) 課題

- ① 本校の通過率を見ると、県の通過率と比較して5ポイント以上劣っている内容は、英語科の「英語的表現」、理科の「沸騰石のはたらき」、社会科の「日本の経済水域」の3つの内容となっているので、今後補充学習で理解と定着を高める必要がある。
- ② 平素の授業の様子から見ても、分からない所を質問したり、工夫しながら学習したりするなどの、自ら積極的に学ぶ態度が十分に身に付いているとはいえない。そのために、各教科の授業において興味や疑問をもたせる工夫や、学級活動の時間を通して学習の仕方や学び方を身に付けさせる必要がある。